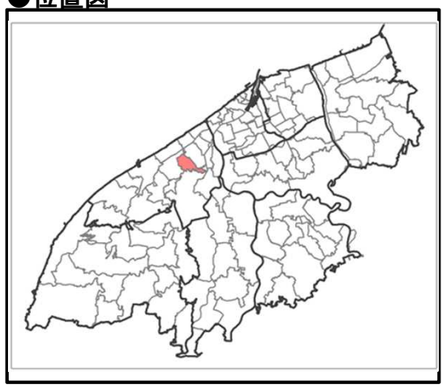
様式１　人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

坂井東小学校区

●住所名称

亀貝		
小新		
坂井1･2丁目		
坂井東3～5丁目		
新田		
新通		
須賀		
寺尾東1～3丁目		
的場流通1･2丁目		
流通センター4～6丁目		

●位置図

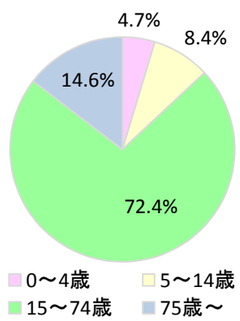


●施設・団体

市役所･区役所等		西区役所
警察･消防		新潟西警察署、寺尾交番
消防団		西方面隊　坂井輪分団
水防倉庫		―
一時避難場所		流通公園、的場史跡公園
広域避難場所		―
主な要配慮者利用施設	幼稚園･保育園	坂井輪幼稚園／坂井保育園
	高齢者福祉施設	ボヌール寺尾
	障がい者福祉施設	のんぴーりAXIS

●人口

総人口	12,000人	地区の割合	市の割合
0～4歳	560人	4.7%	4.0%
5～14歳	1,005人	8.4%	8.5%
15～74歳	8,685人	72.4%	74.6%
75歳～	1,750人	14.6%	12.9%
65歳以上人口	3,413人	28.4%	26.0%
世帯数	4,797世帯		
一世帯あたり人口	2.5人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	4,296人／km²		1,108人／km²
昼間人口	15,656人	夜間の130.5%	

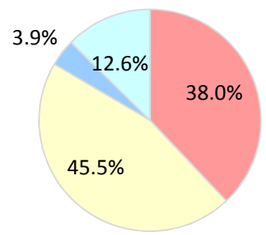


●建物関連指標

総棟数		5,404棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	2,051棟	38.0%	44.2%
	S56年以降建築	2,459棟	45.5%	46.7%
	計	4,510棟	83.4%	90.9%
非木造	S55年以前建築	211棟	3.9%	3.4%
	S56年以降建築	683棟	12.6%	5.7%
	計	895棟	16.6%	9.1%
S56年以降建築物		3,142棟	58.1%	52.4%

S55年以前：主に旧耐震　S56年以降：主に新耐震

※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]：避難所、[ツ]：津波避難ビル・場所	標高（m）	階数	避難可否 地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]坂井東小学校	0.4	4	○	3階以上	全階可	―
[ツ]西区役所本館	-1.1	4	―	3階以上	―	―
[ツ]住宅型有料老人ホーム ボヌール寺尾	0.2	4	―	3階以上	―	―

●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]：避難所、[ツ]：津波避難ビル・場所	標高（m）	階数	避難可否 地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ][ツ]坂井輪小学校	-0.6	4	○	3階以上	全階可	○
[ヒ][ツ]小新中学校	-0.5	4	○	3階以上	3階以上	―
[ヒ]新潟工業高等学校	-0.5	4	○	―	3階以上	―
[ヒ][ツ]新通小学校	-0.2	4	○	3階以上	2階以上	○
[ヒ][ツ]坂井輪中学校	3.5	4	○	3階以上	全階可	○
[ツ]アピタ新潟西店	-0.1	2	―	階以上駐車場	―	―

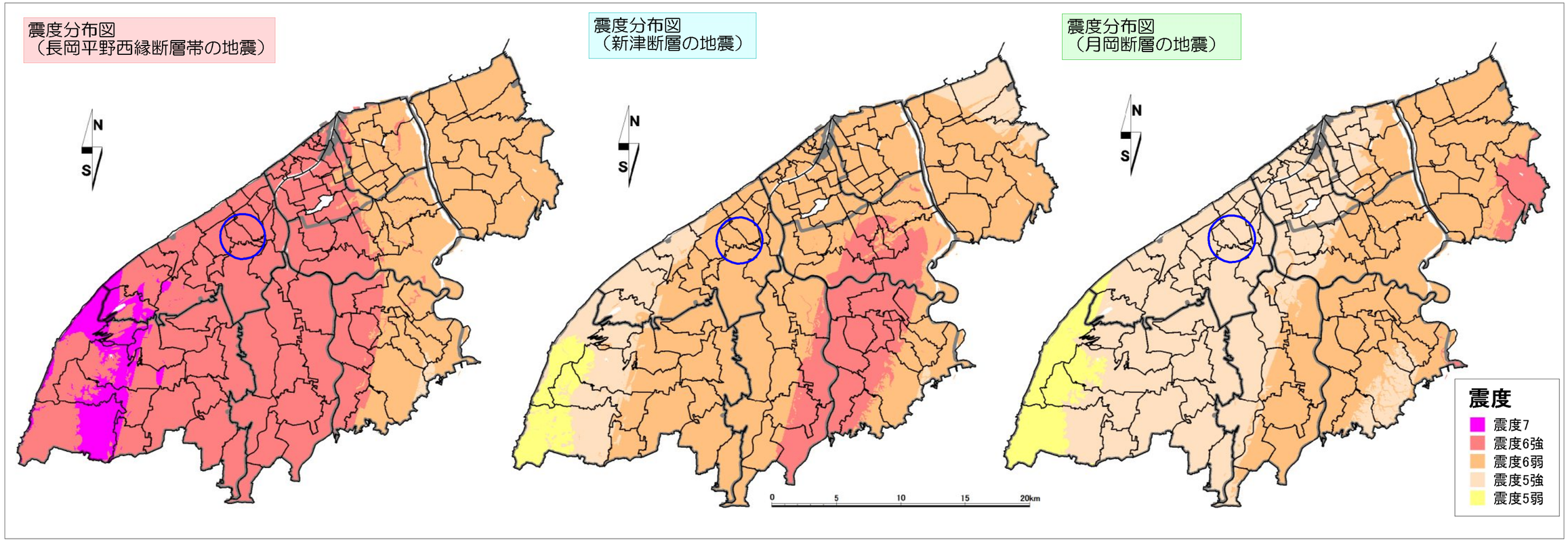
避難の可否（災害ごとに表記）：開設する施設を「○」･「避難可能な階数」、開設しない施設を「－」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

津波・地震	地区の大部分が、信濃川沿いの軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。特に、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。 津波による浸水は、地区全域で想定されている。
土砂・水害	信濃川下流の洪水、中ノ口川の洪水、西川の洪水、大河津分水路の洪水及び新川･大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、大河津分水路の洪水では、地区全域で浸水の可能性がある。

様式２　震度分布図

坂井東小学校区



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模： モーメント マグニチュード	7.46 （気象庁マグニチュード 7.9に相当）	6.45 （気象庁マグニチュード 6.7に相当）	6.76 （気象庁マグニチュード 7.1に相当）
（参考※）	平均活動間隔 約 1,200 年～3,700 年 断層の活動性 3m／千年程度	明確な活動性は明らかになっていない。 月岡断層より、活動性は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m／千年程度

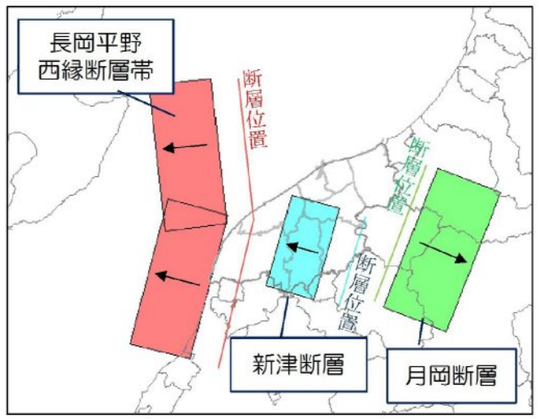
※（参考）国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価（算定基準日：平成 27 年 1 月 1 日）
及び東京大学地震研究所　佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について（地震調査研究推進本部資料より）】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

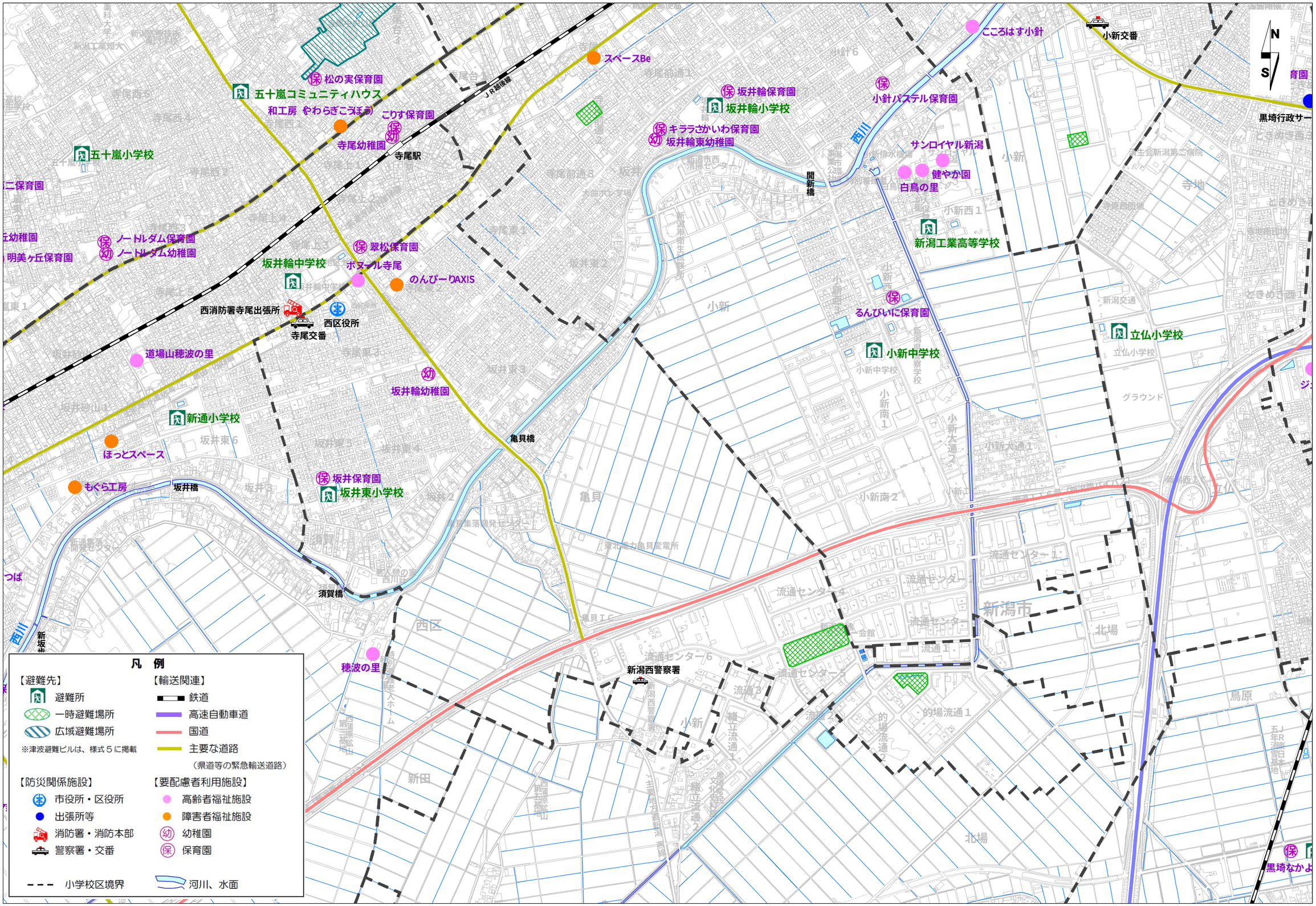
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。

様式３　防災地図

坂井東小学校区



様式４　航空写真

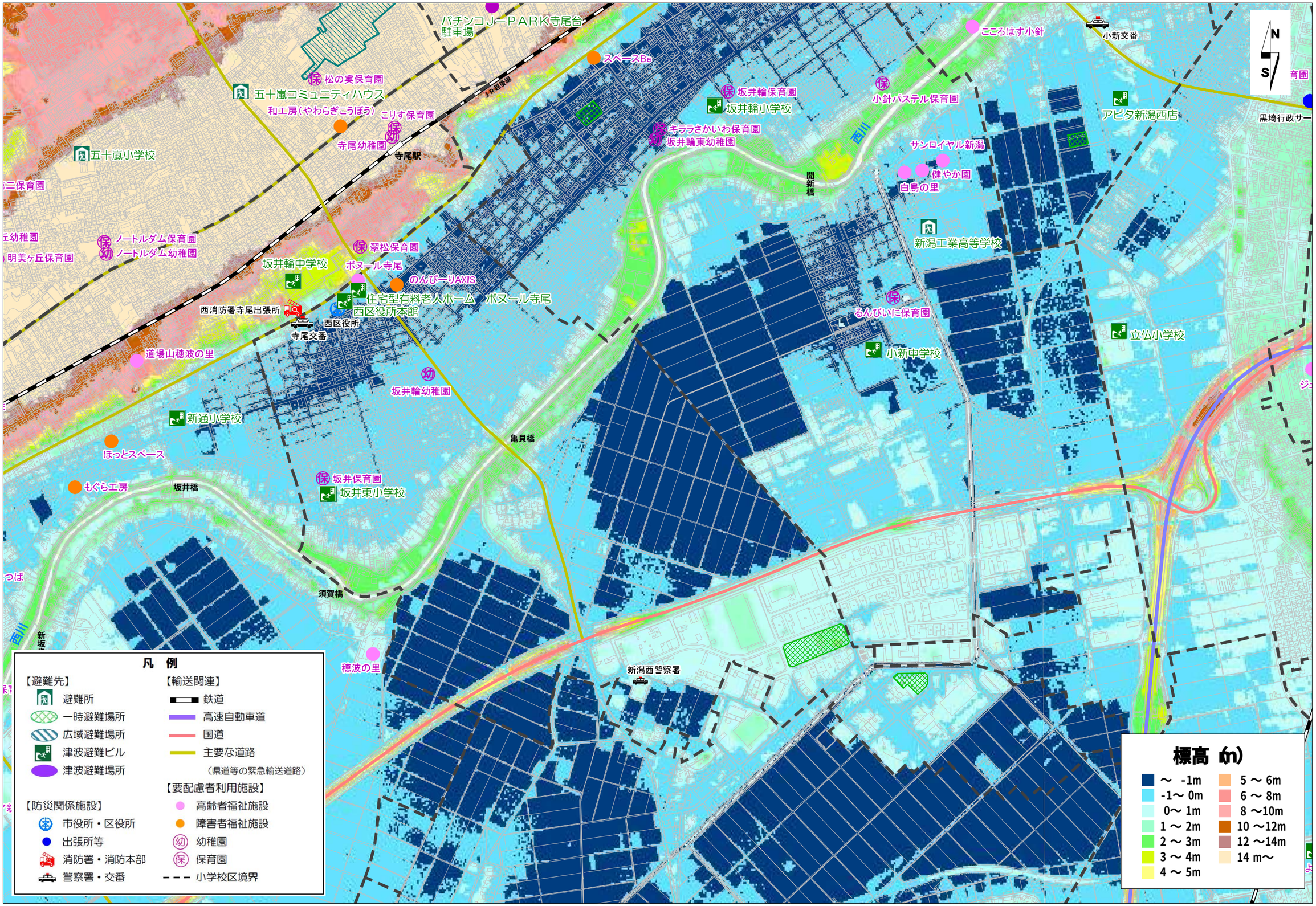
坂井東小学校区

〔出典〕 航空写真（平成26年4月）

0　100　200　400　600　800　1000m

様式５　標高分布図

坂井東小学校区

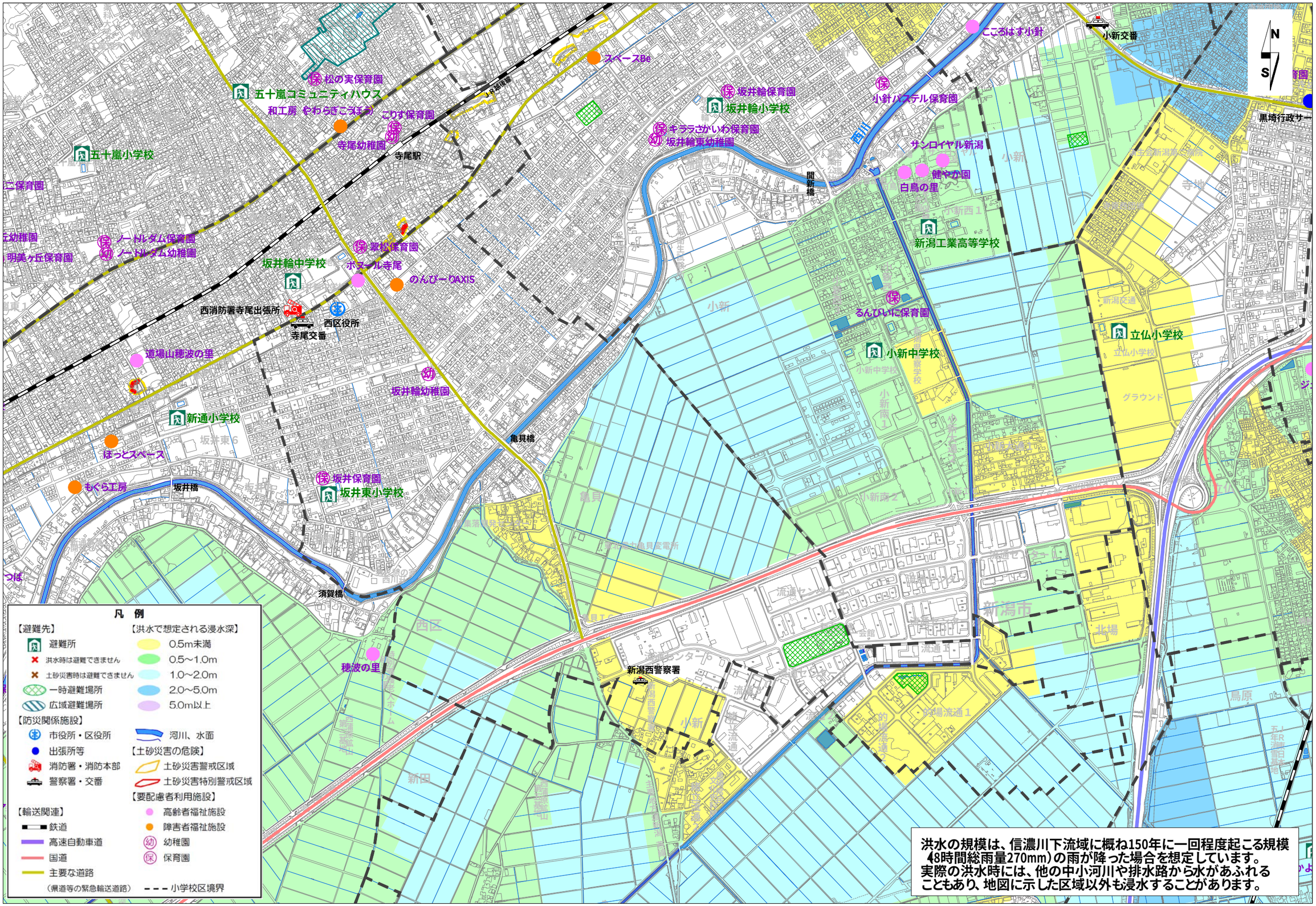


[出典]　基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
5mメッシュDEM　国土地理院，平成25年）

0　100　200　400　600　800　1000m

様式６－１　風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

坂井東小学校区

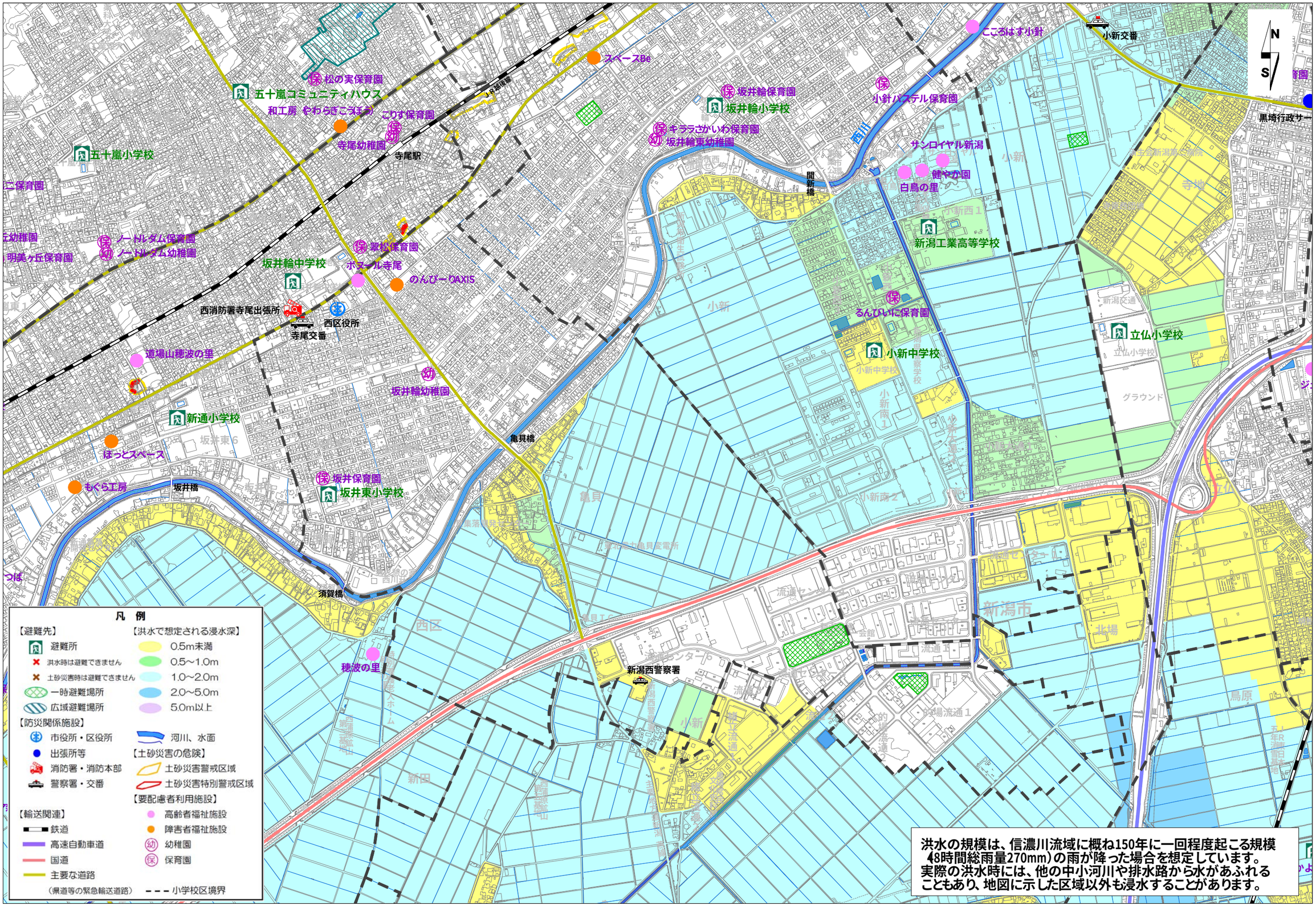


洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。
実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典]　基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
信濃川下流浸水想定区域（国土交通省,平成14年4月30日）

様式６－２　風水害（洪水・土砂災害）対策地図（中ノ口川）

坂井東小学校区



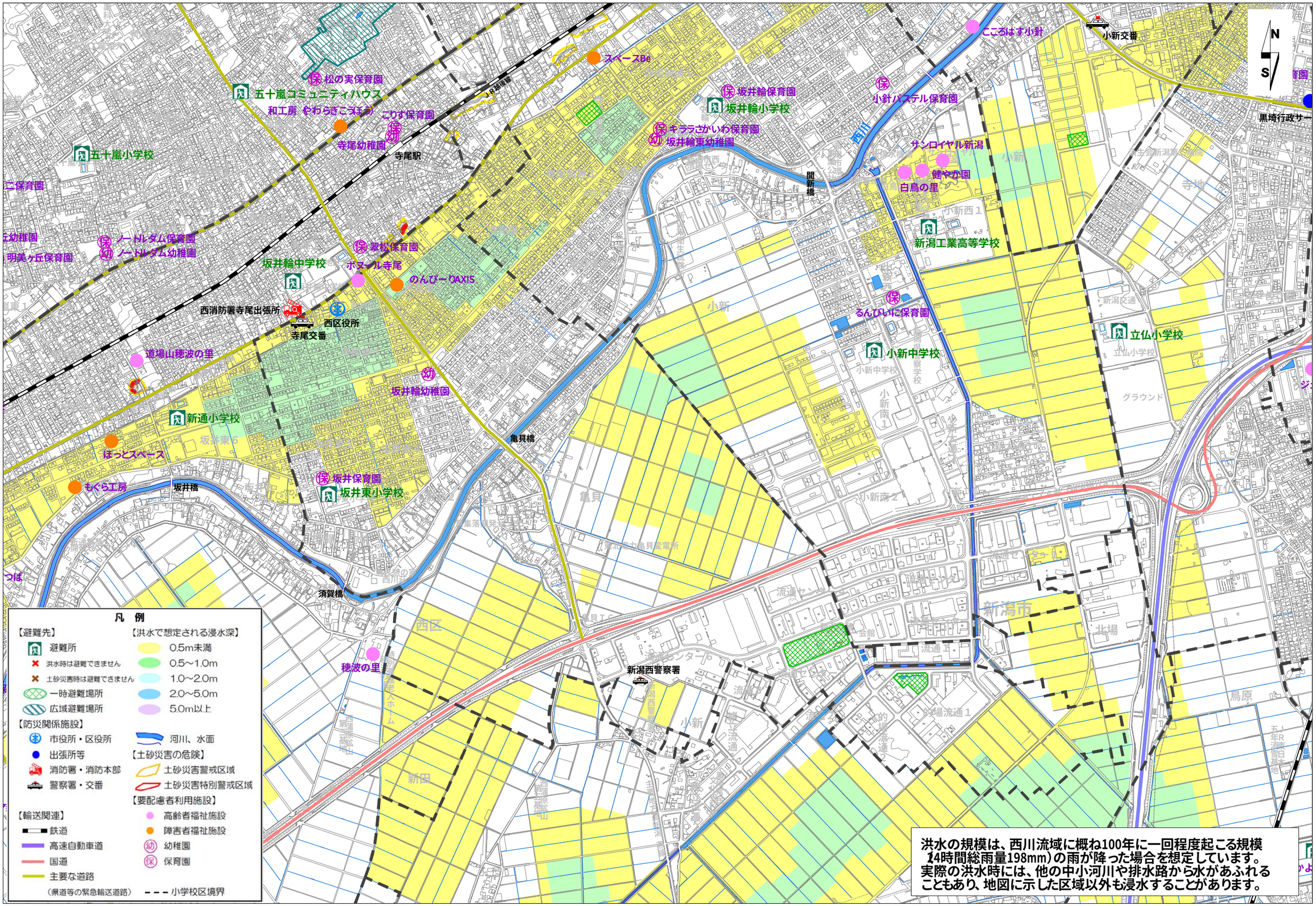
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。
実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典]　基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
中ノ口川浸水想定区域　新潟県,平成16年6月15日）

0　100　200　400　600　800　1000m

様式６－３　風水害（洪水・土砂災害）対策地図（西川）

坂井東小学校区

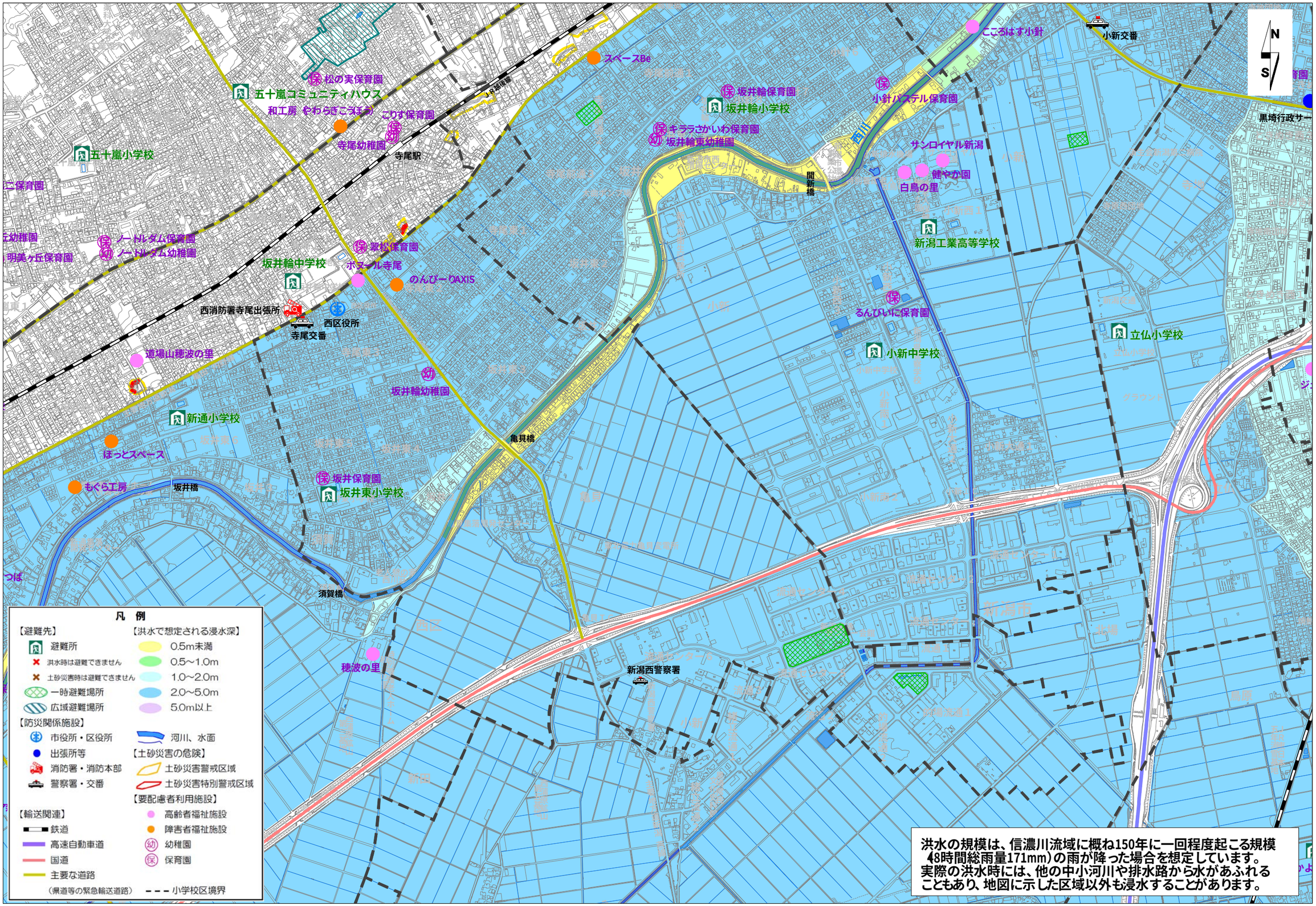


洪水の規模は、西川流域に概ね100年に一回程度起こる規模（24時間総雨量198mm）の雨が降った場合を想定しています。
実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

［出典］ 基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
西川浸水想定区域（新潟県,平成17年6月20日）

様式６－４　風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

坂井東小学校区

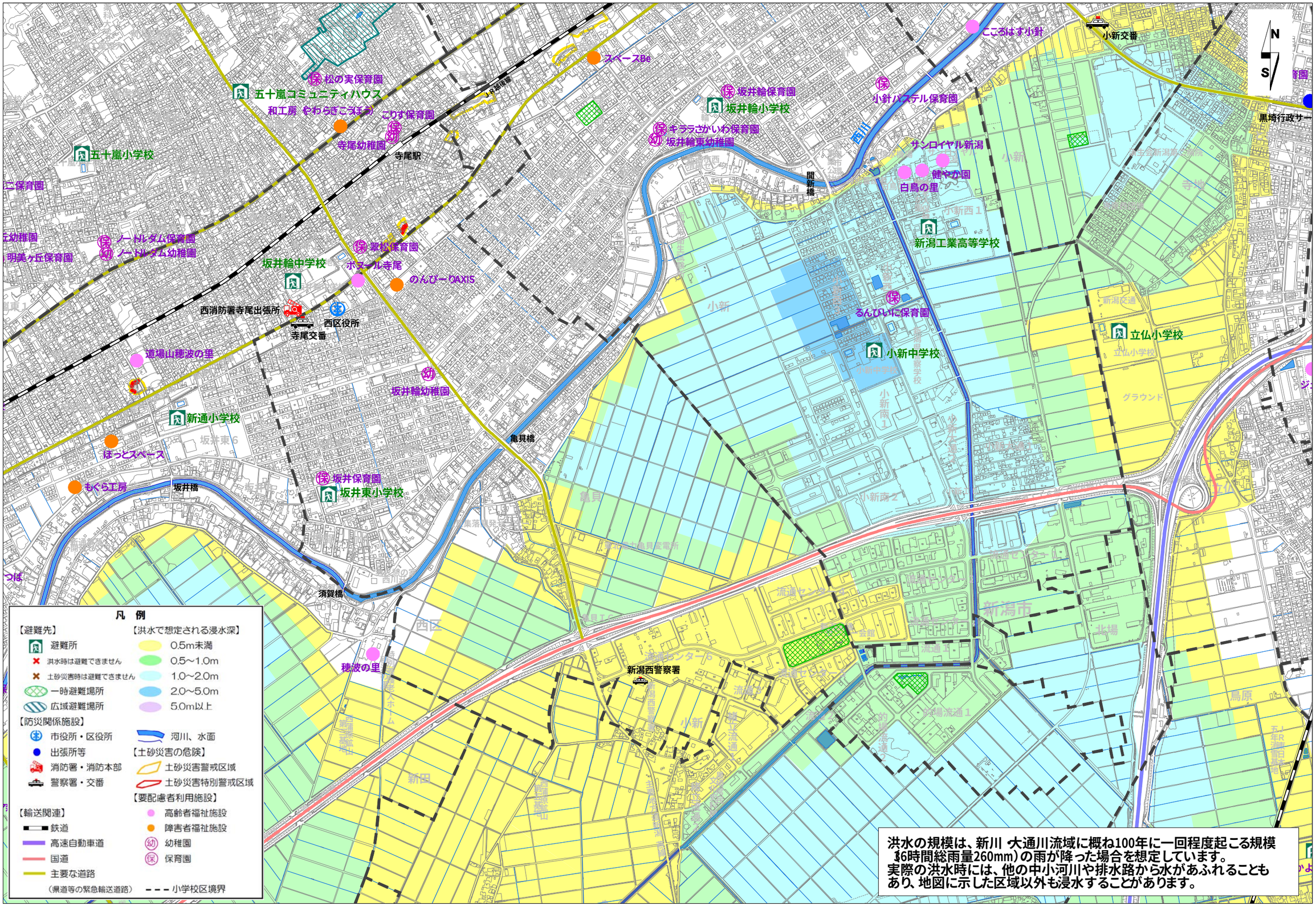


洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量171mm）の雨が降った場合を想定しています。
実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典]　基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
大河津分水路浸水想定区域（国土交通省,平成14年4月30日）

様式６－５　風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路）

坂井東小学校区



[出典]　基盤の地図　新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域（新潟県,平成20年2月26日）